

で出て、夜の十二時頃迄歓談した。

本日、ロソツプ島及び軍艦中の諸費の計算請求あり。今日迄食つたり飲んだりした分を總べて支拂ふ。

○三月二日 曇後雨 (正午の艦の位置 N 32°49' E 140°25')

寒さ俄かに増し、皆冬服に着かへた。寒くて室の外へ出られず。愈々明朝横須賀入港の由、正午頃より、夫々上陸の準備にとりかゝる。

午後五時頃左舷に青島、八丈島、御藏島を見る。東京灣近し。

夕方より雨降り出す。夜は室にて最後の別れの乾杯。

○三月三日 土曜日 横須賀着 曇雪

午前六時起床、六時半朝食、外は一面の吹雪。寒い。

室にかへつて出て見るともう横須賀に、はいつて居た。時に午前八時。観測隊員の家族、知人、多数の出迎へをうける。

午前十一時より、杉山回漕店の手にて荷揚げ。寒い中を午後三時半迄かゝつた。午後4時ランチにて上陸、懐しの軍艦春日にお暇をする。五十日振り内地の土を踏んだ。

京都隊は本日午前解散、五十日に亙る日食観測日誌も同時にこれにて擱筆をする。

(以上)

本會南米支部氣象觀測報告 (勝浦)

	1933年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1934年 1月
最 高 溫 度	33°.0	31.7	29.0	27.5	28.0	27.0	32.2	30.8	35.1	31.0	31.5	30.2
最 低 溫 度	20°.5	16.8	11.0	13.0	1.5	9.0	9.5	14.2	14.8	14.6	18.0	18.9
平 均 溫 度	24°.8	24.5	22.6	20.4	17.3	18.0	20.4	22.1	23.9	23.8	24.3	24.6
降 雨 日 數	12日	15日	6	6	7	7	3	10	12	13	20	30
降 雨 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	167	196
平 均 雲 量	7.3	5.1	3.9	3.3	3.2	4.3	1.7	3.9	6.3	5.3	7.3	9.3
電 光 雷 鳴 日 數	22日	19	12	11	3	2	3	11	17	13	19	27

○當地の天氣模様は昨年2月より今年1月迄の一ケ年分をお知らせ致します。

○観測は1日6回で正しく行つて居ります。雨量は12月以前不明です。

○雲量は昨年から今年にかけて平年より幾分多く、雨量はこれに反し少ない様です。

○黄道光や他の観測可能と思はれる日数は一ケ年を通じて150日以上は充分に行はれる様です。

○毎年12月頃より翌年の2月頃までは日本での所謂梅雨期でありまして比較的曇天続きであります。

函館大火災見舞の返事

會員 藤森登志子氏より

お見舞賜り誠に有難うございました。幸ひ家は郊外になつてゐますので災をまぬがれましたが、火の粉を雨のやうにかぶつて一時はもう駄目かと思ひました。焼跡の惨状は見るに耐えず、死者累々として横はり往環は罹災者の群延々長蛇の如く、親は子を尋ね夫は妻を訪ねて吹雪の中をさまよふ有様は憐れとも凄惨とも云ふに耐えずこの世ながらの地獄の様にございました。（後略）

會員 齋藤平八郎氏より

前略 自分の店舗は商品諸共アツサリと一物残さず焼いてしまひまして、何となくせいせいした様です。（後略）

會員 中島康三郎氏より

前略 家屋は類焼致し候も幸ひにして土藏は安全、家族一同一人の負傷者もなく無事避難致し候間御安心下され度候。

會員 工 きぬ氏より

前略 幸ひにしてこちらの街は火をまぬがれましたので、無事に居りますから御安心下さい。

會員 天野吉郎氏

返信なし。

上 田 支 部 通 信

長野縣北佐久郡伍賀村面替青年會員約20名は小縣郡内視察の目的で 3月26日同村を出發別所温泉に一泊し翌27日午前10時上田支部の宮島天文臺を見學した。支部長宮島善一郎氏は會員の質問に應へ尙本會設立の趣意に付懇切に説明した。同一行は正午頃辭去し國立上田蠶糸専門學校を參觀歸路に向つた。

4 月 5 日

宮 島 善 一 郎

南 米 支 部 通 信

當地での只今は宵早くに南十字は南東の空高く、アケルナルは西空に、カノープスは高く南中せんとし、その間に浮ぶ大小のマゼラン星雲、そして天頂に君臨するオリオン大犬等、南國に於ける最大の美觀を呈す頃でご座居ます。

別紙(第277頁)に一年中の天氣の有様をお知らせお送りしますに就き、つゞめもなき事を書かして頂きましてお詫び致します。

謹 言

1934年2月21日

南 米 支 部

勝 浦 茂 雄